

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年5月1日

【四半期会計期間】 第58期第1四半期(自平成26年12月21日 至平成27年3月20日)

【会社名】 東邦レマック株式会社

【英訳名】 TOHO LAMAC CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 笠井 庄 治

【本店の所在の場所】 東京都文京区湯島三丁目42番6号

【電話番号】 (03)3832 - 0131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼総務部長 沼田 茂 義

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区湯島三丁目46番13号

【電話番号】 (03)3832 - 0131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼総務部長 沼田 茂 義

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第57期 第1四半期 累計期間	第58期 第1四半期 累計期間	第57期
会計期間	自 平成25年 12月21日 至 平成26年 3月20日	自 平成26年 12月21日 至 平成27年 3月20日	自 平成25年 12月21日 至 平成26年 12月20日
売上高 (千円)	3,777,539	3,357,962	15,949,522
経常利益 又は経常損失( ) (千円)	126,390	175,904	89,573
四半期(当期)純損失( ) (千円)	81,599	117,352	440,600
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	961,720	961,720	961,720
発行済株式総数 (株)	5,120,700	5,120,700	5,120,700
純資産額 (千円)	5,938,899	5,535,292	5,611,322
総資産額 (千円)	11,366,629	9,952,552	10,781,735
1株当たり四半期(当期) 純損失( ) (円)	16.00	23.02	86.40
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	12.00
自己資本比率 (%)	52.2	55.6	52.0

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益は、四半期財務諸表等規則第12条の規定により、関連会社の損益等に重要性が乏しいため記載を省略しております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、各種経済対策及び追加金融緩和策が下支えするなかで、原油安や雇用情勢の改善、また実質所得の増加に伴う消費の回復が見られるなど、景気は緩やかながら回復基調で推移いたしました。しかしながら企業規模間の業績格差及び所得格差の拡大、米国の金融政策スタンスの行方やユーロ圏・新興国経済の動向など、景気を下押しするリスクが依然として存在しており、景気の先行きは引き続き不透明な状況にあります。

このような状況の中で、当社は主力商品である婦人靴・紳士靴がともに苦戦し、前年同四半期の売上高を下回る結果となりました。売上総利益につきましては円安対策を講じて対応していたものの評価減等の影響により、前年同四半期を下回りました。また営業損益につきましては販売費及び一般管理費を削減できたものの、売上総利益の落ち込みが大きく響き、前年同四半期を下回る結果となりました。

経常損益につきましては、前年同四半期とほぼ変わらない営業外収益をあげたものの、営業損益の落ち込みを補うことができず、前年同四半期を下回りました。また四半期純損益につきましても、それらの影響から前年同四半期を大きく下回る結果となりました。

その結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高33億57百万円（前年同四半期比11.1%減）となり、売上総利益は5億6百万円（前年同四半期比19.0%減）、営業損失は1億92百万円（前年同四半期は営業損失1億47百万円）、経常損失は1億75百万円（前年同四半期は経常損失1億26百万円）となり、四半期純損失は1億17百万円（前年同四半期は四半期純損失81百万円）となりました。

当社は、シューズ事業の単一セグメントであります。単一セグメントの品目別の売上状況は、次のとおりであります。

#### 婦人靴

婦人靴につきましては、ライセンスブランドは全般的に苦戦しました。主力のP B商品は、「B.C.COMPANY（ビーシーカンパニー）」「SONIA PARENTI（ソニアパレンティ）」及び「FIT PARTNER（フィットパートナー）」など全般的に苦戦しました。その結果、婦人靴の売上高は、19億80百万円（前年同四半期比16.8%減）となりました。

#### 紳士靴

紳士靴につきましては、ライセンスブランドは全般的に苦戦しました。P B商品の「GETON！（ゲットオン）」「LEON（レオン）」が健闘しましたが、「Alufort（アルフォート）」「ALBERT HALL（アルバートホール）」は苦戦しました。その結果、紳士靴の売上高は、5億円61百万円（前年同四半期比19.8%減）となりました。

#### ゴム・スニーカー・その他

ゴム・スニーカー・その他の売上高は、受注が増加したことにより8億15百万円（前年同四半期比16.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

流動資産は、前事業年度末に比べ11億11百万円減少し、65億52百万円となりました。これは、主に商品が3億39百万円増加した一方で、現金及び預金が7億53百万円、受取手形及び売掛金が6億59百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ2億82百万円増加し、33億99百万円となりました。これは、主に投資その他の資産の投資有価証券が1億36百万円、投資不動産が1億58百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は前事業年度末に比べ8億29百万円減少し、99億52百万円となりました。

負債

流動負債は、前事業年度末に比べ7億98百万円減少し、38億00百万円となりました。これは、主に賞与引当金が28百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が3億12百万円、短期借入金が3億50百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ45百万円増加し、6億16百万円となりました。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べ7億53百万円減少し、44億17百万円となりました。

純資産

純資産合計は、前事業年度末に比べ76百万円減少し、55億35百万円となりました。これは、主にその他有価証券評価差額金が86百万円増加した一方で、利益剰余金が1億47百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,000,000
計	18,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年3月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年5月1日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,120,700	5,120,700	(株)東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株であります。
計	5,120,700	5,120,700		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年3月20日	-	5,120,700	-	961,720	-	838,440

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成26年12月20日の株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 22,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,066,000	5,066	
単元未満株式	普通株式 32,700		
発行済株式総数	5,120,700		
総株主の議決権		5,066	

(注) 単元未満株式には、当社保有の自己株式306株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東邦レマック株式会社	東京都文京区湯島 3 - 42 - 6	22,000		22,000	0.43
計		22,000		22,000	0.43

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は22,950株、その発行済株式総数に対する所有割合は0.45%であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成26年12月21日から平成27年3月20日まで）及び第1四半期累計期間（平成26年12月21日から平成27年3月20日まで）に係る四半期財務諸表について、優成監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合を示すと次のとおりであります。

資産基準	0.1%
売上高基準	0.0%
利益基準	0.6%
利益剰余金基準	0.0%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

## 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月20日)	当第1四半期会計期間 (平成27年3月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,244,993	491,372
受取手形及び売掛金	3,685,635	3,025,890
電子記録債権	1,319,545	1,161,009
商品	1,262,008	1,601,445
その他	152,516	273,509
貸倒引当金	506	431
流動資産合計	7,664,194	6,552,796
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	395,087	388,728
土地	969,484	968,162
その他(純額)	33,770	30,913
有形固定資産合計	1,398,343	1,387,805
無形固定資産	29,714	25,652
投資その他の資産		
投資有価証券	955,862	1,092,057
関係会社株式	8,368	8,368
投資不動産(純額)	603,293	761,463
その他	126,843	129,292
貸倒引当金	4,883	4,883
投資その他の資産合計	1,689,483	1,986,298
固定資産合計	3,117,541	3,399,756
資産合計	10,781,735	9,952,552
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,345,190	2,033,144
短期借入金	1,350,000	1,000,000
未払法人税等	21,555	3,379
賞与引当金	46,211	75,011
その他	836,961	689,445
流動負債合計	4,599,918	3,800,980
固定負債		
退職給付引当金	258,375	254,799
役員退職慰労引当金	88,166	90,044
資産除去債務	2,190	2,190
その他	221,762	269,245
固定負債合計	570,494	616,279
負債合計	5,170,413	4,417,260

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月20日)	当第1四半期会計期間 (平成27年3月20日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	961,720	961,720
資本剰余金	838,440	838,440
利益剰余金	3,574,991	3,427,048
自己株式	12,097	12,441
株主資本合計	5,363,054	5,214,766
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	221,204	307,575
繰延ヘッジ損益	27,064	12,949
評価・換算差額等合計	248,268	320,525
純資産合計	5,611,322	5,535,292
負債純資産合計	10,781,735	9,952,552

(2) 【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年12月21日 至平成27年3月20日)
売上高	3,777,539	3,357,962
売上原価	3,152,090	2,851,062
売上総利益	625,448	506,900
販売費及び一般管理費	772,641	699,640
営業損失( )	147,192	192,740
営業外収益		
受取利息	798	2,163
受取配当金	57	81
仕入割引	1,144	234
受取賃貸料	16,238	19,679
為替差益	13	-
保険解約返戻金	-	1,787
その他	9,952	2,098
営業外収益合計	28,205	26,046
営業外費用		
支払利息	2,101	770
手形売却損	555	463
賃貸費用	4,068	7,056
為替差損	-	29
その他	677	891
営業外費用合計	7,402	9,210
経常損失( )	126,390	175,904
特別利益		
固定資産売却益	-	130
特別利益合計	-	130
特別損失		
固定資産除却損	38	189
固定資産売却損	286	-
特別損失合計	324	189
税引前四半期純損失( )	126,714	175,963
法人税、住民税及び事業税	2,932	1,953
法人税等調整額	48,047	60,564
法人税等合計	45,114	58,610
四半期純損失( )	81,599	117,352

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

受取手形割引高

	前事業年度 (平成26年12月20日)	当第1四半期会計期間 (平成27年3月20日)
受取手形割引高	58,460千円	124,350千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年12月21日 至平成27年3月20日)
減価償却費	15,233千円	15,606千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月14日 定時株主総会	普通株式	30,599	6.00	平成25年12月20日	平成26年3月17日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自平成26年12月21日 至平成27年3月20日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月13日 定時株主総会	普通株式	30,590	6.00	平成26年12月20日	平成27年3月16日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成25年12月21日 至 平成26年3月20日)

当社は、「シューズ事業」の単一セグメントのため、記載を省略しております。

当第1四半期累計期間(自平成26年12月21日 至 平成27年3月20日)

当社は、「シューズ事業」の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年12月21日 至平成27年3月20日)
1株当たり四半期純損失( )	16円00銭	23円02銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失( )(千円)	81,599	117,352
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失( )(千円)	81,599	117,352
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,099	5,098

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年4月27日

東邦レマック株式会社  
取締役会 御中

優成監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 善孝 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中田 啓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東邦レマック株式会社の平成26年12月21日から平成27年12月20日までの第58期事業年度の第1四半期会計期間(平成26年12月21日から平成27年3月20日まで)及び第1四半期累計期間(平成26年12月21日から平成27年3月20日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東邦レマック株式会社の平成27年3月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。